足羽山の思い出

牧田　雨煙樹

新緑したたる5月ある日足羽山の郷土博物館で、「足羽山の自然を守る会」という会が発足した。雨の中ではあったが、それでも30名は集まった。これは足羽山を中心に住みついている野鳥を守る会の人々が自然の風物を愛する人々に呼びかけて立ち上がった止むにやまれぬ叫びであった。その趣意書の初めに「足羽山は私たちの遠い祖先の住んでいたころから美しい姿を横たへ四季おりおりの草花や鳥や虫たちを育て豊かな緑の林や森は市民の憩いの場である。」と書いてある。私も俳句を通じて自然を愛するという立ち場で加った一人であるが、福井に生れて80年この足羽山へは何百回登ったことか。よんだ俳句もずいぶんある。足羽山をこよなく愛しここに骨を理めようとこの山の一角西墓地霊園に両煙樹一族之墓とほって建ててある。私が物心ついた明治30年頃を振返ってみると足羽山とは言わず明治の終り迄は愛宕山と言はれ登り口の石段は今も変りがないが郷土歴史館が建っているあたりに、正玄多宝塔があった足羽山中でも最も秀でた建造物であり実に素晴らしい輪郭の美を誇っていたものであったが、明治33年の橋南大火で失われたのは惜みても余りある年である。そのわきに時鐘とも言って福井市民に長らく親しまれていた足羽神社の境内を通り抜けると茶店があり其下に日井の矢場と実弾射撃場があって腕を競い合っていた。その附近の林には多くのかぶと虫がいて子供のときよく捕えに行った。山の一番高い所に継体天皇の石像があり、はるか西北へ目を注ぐと三国町にある5階建の三国小学校の屋根がかすかに見えた。そのころの澄んだ美しい空気を今改めて、泌々と思い起すことである小学校時代の遠足運動会は殆ど足羽山で行なわれ山奥の一名蛇の口と云う只一ケ所の水の湧く所まで降りて、口をいやした事今も忘れ難い。この外中腹の藤島神社はじめこの山を背に20余の社寺が古い歴史を持って今も市民に親しまれているが、不動山の蔦もみじの岩壁、瑞源寺の萩、福井藩時代の丹巌洞などの史跡は人の絶え間もなかったが、最近競輪の花火の音などで300種もいた野鳥も今は100種もいない。山は小はオートバイから大は観光バスまでが乗り入れ静かな散策気分にもなれない。時代に抗することも出来ないがなんとか自然を守る名案がないものかと嘆きつつあれこれ思案している一人である。